

「日本人論」④ まとめ 教案

〔前回の復習〕

〔今回の授業のねらい〕

留学生が日本で暮らし、将来日本で働くために必要な知識や理解として、これまで日本人論を以下のように展開してきた。

- ① 個人心理のレベル、人間関係のレベル、社会全体のレベル
- ② 最近の日本の若者の特徴
- ③ 「友達力」と「アルバイト力」

ここではまとめとして、これまでの展開の根本的にあるものは何であるのかを、コミュニケーションのパターンから学ぶこととする。

〔解説と授業の展開〕

日本人のコミュニケーション

●コミュニケーションとは

人々は情報をつくり、交わし、発展させ、普及させ、やがてそれは文化として集団の中に定着し、共有され、そして世代を超えて継承される。この過程を、心理学では、「学習」というが、文化を考える際には、つねに学習、共有、継承という3つの用語がキーワードとなる。コミュニケーションとは、この学習過程をいう。

●コミュニケーションの4つのパターン

i) 片立型

コミュニケーションの方向性を1本にする（アレかコレか）

ii) 両立型

自己と相手双方の意見をそのまま残す（アレもコレも）

iii) 同立型

双方とも同意見のまま（アレはアレ、コレはコレ）

iv) 創造型

自己とも相手とも異なる意見をつくる（アレでもない、コレでもない新しいもの）

●日本人のコミュニケーションは両立型

なぜ「タテマエ」と「ホンネ」が生まれるのか

両立型というのは、AさんとBさん、または、Aという内容の情報とBという内容の情報がコミュニケーションしたとき、Bは自分の情報（意見）を捨てないままに、Aとの人間関係ゆえに、Aの情報を不承不承ながら受け入れる（ことに同意する）コミュニケーション型のことをいう。しかしながら、心からの、また納得を伴う同化ではないので、その場では同意しても、その後の行動に整合性を欠くことになりやすい。すなわち、言動に矛盾が起きやすいのである。日本語の「はい」、とくにタテマエの「はい」には、英語の「イエス」ほどの重みはない。日本の組織によくある「名前だけの親分 (figurehead)」の意見のようであり、ホンネの意見の場合が多い。また、コミュニケーションに失敗したときは、対立に続いて、すぐに分立の構造に変化する。実に多くの日本人が対立のままの状態が苦手なので、分立というコミュニケーションの忌避状態に入る。

[授業のまとめ]

[参考文献]

- ・ 日本文化論キーワード（2009年 有斐閣双書）

[レジュメ]

添付

「日本人論」④ まとめ レジюме

〔前回の復習〕

〔本日の授業内容〕

日本人のコミュニケーション

●コミュニケーションとは

●コミュニケーションの4つのパターン

i) 片立型

ii) 両立型

iii) 同立型

iv) 創造型

●日本人のコミュニケーションは両立型

なぜ「タテマエ」と「ホンネ」が生まれるのか

〔授業のまとめ〕